

# 声明文

☆ 生田緑地・向ヶ丘遊園跡地にふさわしい跡地利用を目指して ☆

小田急電鉄（株）による見直しの「向ヶ丘遊園跡地利用に関する基本計画策定」について

2010年4月12日

向ヶ丘遊園の緑を守り、市民いこいの場を求める会  
(略称 向ヶ丘遊園の会)

3月26日(金)小田急電鉄(株)は見直しの向ヶ丘遊園跡地利用に関する基本計画を発表し、条例環境影響評価方法書を市に提出しました。2007年に出された計画は5階建850戸マンション中心計画でしたが、今回は一戸建て60戸と3階建マンション160戸合計220戸と大幅な縮小案です。

おもな「事業ゾーン」計画は以下の通りです。

- 旧正門付近 店舗・事務所一棟 2階建て 高さ9m 駐車台数17台 (住宅計画は無し)  
\*市の計画 ドラえもんミュージアム 一部3階建て 高さ一部16m  
(旧計画 幅100m、高さ20m:6階建20戸のマンションと生活支援施設)
- 観覧車などの遊具撤去跡地 レジデンスゾーンA 一戸建て60戸 高さ8m 駐車台数120台  
(旧計画 5階建450戸のマンション)
- 南側旧グラウンド跡地 レジデンスゾーンB 3階建てマンション160戸 高さ10m 駐車台数168台  
(旧計画 5階建340戸のマンション)

	住宅戸数	建物の高さ	計画人口	駐車台数
今回計画	2か所合計 220戸	8m~10m(2階と3階)	770人	385台
前回(2007年)	3か所合計 850戸	15m~20m(5階と6階)	2775人	1060台

これ以外に今回の計画では、ばら苑隣接地の旧「水仙の丘」「ピクニック広場」付近の「ガーデンゾーン」の整備も含まれ、整備後一定のルールのもと、一般開放の予定。

私達は、上記の見直しの計画に対して次のように考えます。

前回2007年1月に出された5階建850戸のマンション中心計画に対しては、向ヶ丘遊園跡地・生田緑地に似合わないとして541人から3786通の意見が出されました。

今回の計画は、市民意見と川崎市からの条例方法審査書に配慮し、併せてその後の「著しい外部環境の変化」に伴って計画を大幅に見直したと推測されます。

私達は計画を見直された小田急電鉄(株)の決断に対して敬意を表します。

同時に、川崎市内で最も緑豊かな生田緑地にふさわしい土地利用であるのか、また2004年11月の基本合意書の「跡地利用は、良好なまちづくりに寄与する計画とする」の視点を鑑みると、今回の計画案は、さらに改善の余地があると思われます。

すなわちレジデンスゾーンAが周辺住宅地(五所塚)に与える影響や市民憩いの場として開かれた空間であり続けられるかどうか、レジデンスゾーンBの集合住宅の内容、さらに周辺の公共施設の利用、交通関係など、今後も検討が必要と考えています。

「向ヶ丘遊園の緑を守り、市民いこいの場を求める会」は、多摩丘陵の緑豊かな景観を次世代に残すため、また会のもう一つの目的である市民憩いの場として利用し続けられる場所であるよう、今後も川崎市、小田急電鉄(株)に意見を出し続けます。

これからも皆様方の変わらぬご理解・ご協力をお願い申し上げます。